

令和4年度さいたま市水道事業会計決算の概要

1 決算のポイント

■ 令和4年度の主要な取組

重要施策事業として水道施設整備事業を推進しました。特に、老朽施設の更新や耐震性の向上など、信頼性の高い安心な水道の構築を目指しました。また、行政手続きのデジタル化を推進するため、営業事務事業を実施しました。

水道施設整備事業

老朽管更新、配水管布設など、水道施設の整備のほか、自家発電設備の更新工事等に取り組みました。

営業事務事業

Web 口座振替受付サービス及び「さいたま市水道局アプリ」による検針結果の配信等を実施するとともに、水道メーター検針におけるリモートネットワークの導入に向けた準備を開始しました。

■ 基本業務量

| 項目 | | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 前年増減 |
|----------|----------------|----------------|----------------|----------------|---------------|
| 給水件数 | 件 | 623,234 | 632,846 | 641,383 | 8,537 |
| 年間総給水量 | m ³ | 136,094,440 | 136,261,700 | 134,613,480 | △ 1,648,220 |
| 受水 | m ³ | 119,937,290 | 121,617,410 | 124,645,450 | 3,028,040 |
| 地下水 | m ³ | 16,157,150 | 14,644,290 | 9,968,030 | △ 4,676,260 |
| 1日最大給水量 | m ³ | 410,300 | 396,870 | 396,030 | △ 840 |
| 1日平均給水量 | m ³ | 372,861 | 373,320 | 368,804 | △ 4,516 |
| 年間総有収水量 | m ³ | 129,583,851 | 129,887,056 | 128,107,846 | △ 1,779,210 |
| 有収率 | % | 95.2 | 95.3 | 95.2 | △ 0.1 |
| 料金収入(税抜) | 円 | 26,952,652,074 | 27,105,390,356 | 26,798,458,046 | △ 306,932,310 |

有収率とは、年間給水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標です。

■ 水道水をお届けするための収支(税抜)

(単位:千円)

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 前年増減 |
|-------|------------|------------|------------|-----------|
| 収益的収入 | 30,508,831 | 31,036,871 | 30,411,703 | △ 625,168 |
| 収益的支出 | 25,708,653 | 25,805,437 | 25,926,950 | 121,513 |
| 収支差引 | 4,800,178 | 5,231,434 | 4,484,753 | △ 746,681 |

■ 施設を整備するための収支(税込)

(単位:千円)

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 前年増減 |
|-------|--------------|--------------|--------------|-----------|
| 資本的収入 | 3,521,710 | 3,804,006 | 5,844,558 | 2,040,552 |
| 資本的支出 | 17,566,244 | 16,576,541 | 19,323,169 | 2,746,628 |
| 収支差引 | △ 14,044,534 | △ 12,772,535 | △ 13,478,611 | △ 706,076 |

収支差引(不足額)については、純利益や現金支出を伴わない費用(減価償却費など)^{*1}によって留保された資金などで補填しました。

※1 水道施設や設備は、年々価値が減少していきます。1年間で減少した価値は、減価償却費として費用化していますが、実際に現金の支出を伴うものではないため、費用に相当する額の資金が留保されます。

■ 損益計算書

(単位:千円)

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 前年増減 |
|--------|------------|------------|------------|-----------|
| 水道事業収益 | 30,508,831 | 31,036,871 | 30,411,703 | △ 625,168 |
| 営業収益 | 29,146,934 | 29,665,818 | 29,015,631 | △ 650,187 |
| 営業外収益 | 1,351,943 | 1,356,370 | 1,378,919 | 22,549 |
| 特別利益 | 9,954 | 14,683 | 17,153 | 2,470 |
| 水道事業費用 | 25,708,653 | 25,805,437 | 25,926,950 | 121,513 |
| 営業費用 | 24,846,549 | 24,919,356 | 25,279,471 | 360,115 |
| 営業外費用 | 860,306 | 749,254 | 645,738 | △ 103,516 |
| 特別損失 | 1,798 | 136,827 | 1,741 | △ 135,086 |
| 当年度純利益 | 4,800,178 | 5,231,434 | 4,484,753 | △ 746,681 |

当年度純利益は、水道管や施設の更新などのための財源として使用します。

■ 貸借対照表

(単位:千円)

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 前年増減 |
|------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 資産 | 223,987,380 | 225,674,242 | 231,159,650 | 5,485,408 |
| 固定資産 | 205,642,591 | 207,557,584 | 212,291,659 | 4,734,075 |
| 流動資産 | 18,344,789 | 18,116,658 | 18,867,991 | 751,333 |
| 負債 | 81,507,190 | 77,962,617 | 78,963,273 | 1,000,656 |
| 固定負債 | 41,124,012 | 40,068,392 | 40,829,925 | 761,533 |
| 流動負債 | 11,790,346 | 10,112,152 | 10,739,993 | 627,841 |
| 繰延収益 | 28,592,832 | 27,782,073 | 27,393,355 | △ 388,718 |
| 資本 | 142,480,190 | 147,711,625 | 152,196,377 | 4,484,752 |
| 資本金 | 129,755,596 | 134,318,122 | 139,118,300 | 4,800,178 |
| 剰余金 | 12,724,594 | 13,393,503 | 13,078,077 | △ 315,426 |

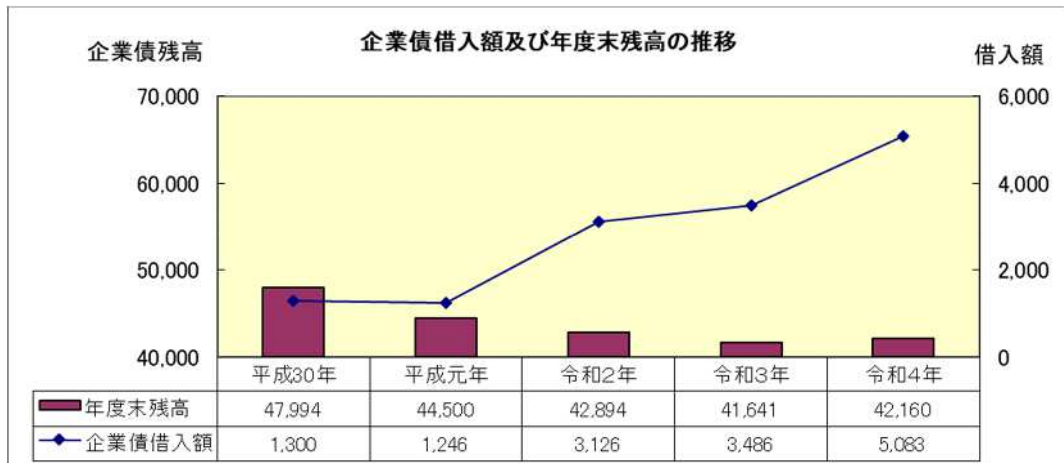
■ キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

| 項目 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 前年増減 |
|----------------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 資金期首残高 | 13,845,657 | 14,248,680 | 13,659,076 | △ 589,604 |
| 資金増減額 | 403,023 | △ 589,604 | △ 137,377 | 452,227 |
| 業務活動による キャッシュ・フロー | 12,446,582 | 12,813,441 | 11,784,298 | △ 1,029,143 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 10,347,854 | △ 12,057,381 | △ 12,346,833 | △ 289,452 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 1,695,705 | △ 1,345,664 | 425,158 | 1,770,822 |
| 資金期末残高 | 14,248,680 | 13,659,076 | 13,521,699 | △ 137,377 |

■ 企業債残高

(単位:百万円)

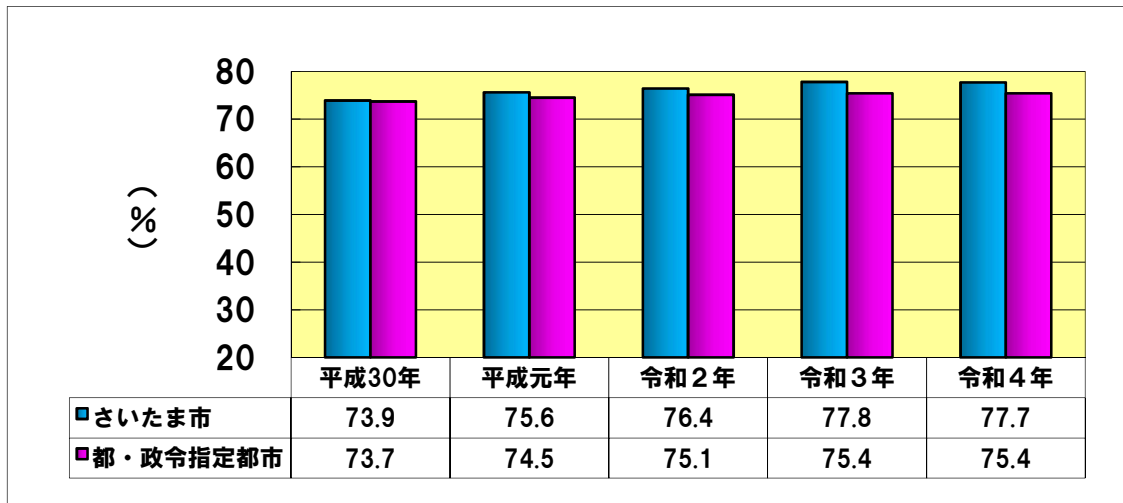


企業債借入額の増加に伴い、令和4年度の年度末残高は約5億円増加しました。

2 財務分析

令和4年度決算の代表的な経営分析指標を、都・政令指定都市の平均値と比較します。

■ 自己資本構成比率

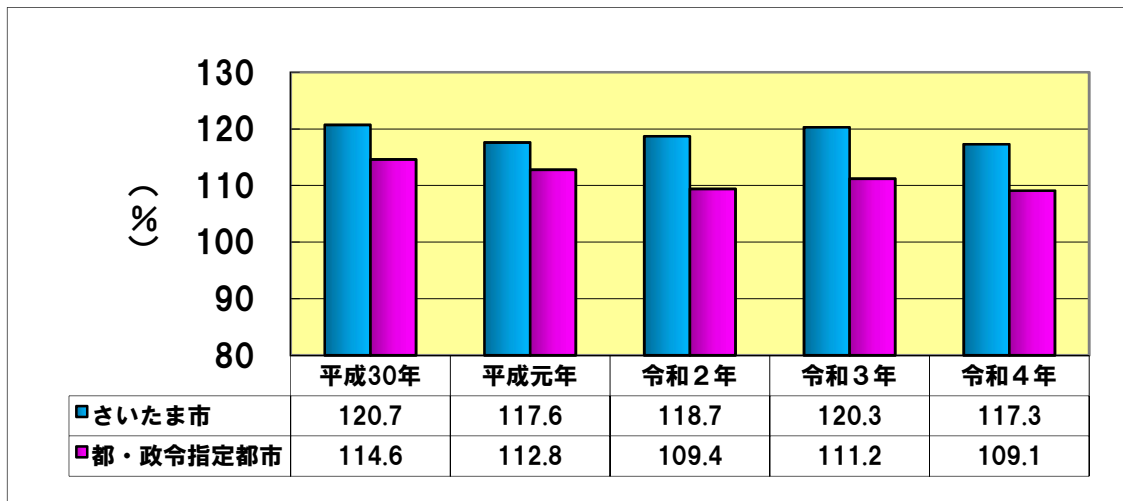


自己資本構成比率

総資本(負債・資本)に占める自己資本の割合。
財務的健全性を示す指標の一つです。

さいたま市の自己資本構成比率は、企業債の削減に努めるなど改善を続けた結果、都・政令指定都市の平均を上回り、令和4年度は横ばいとなっています。

■ 総収支比率

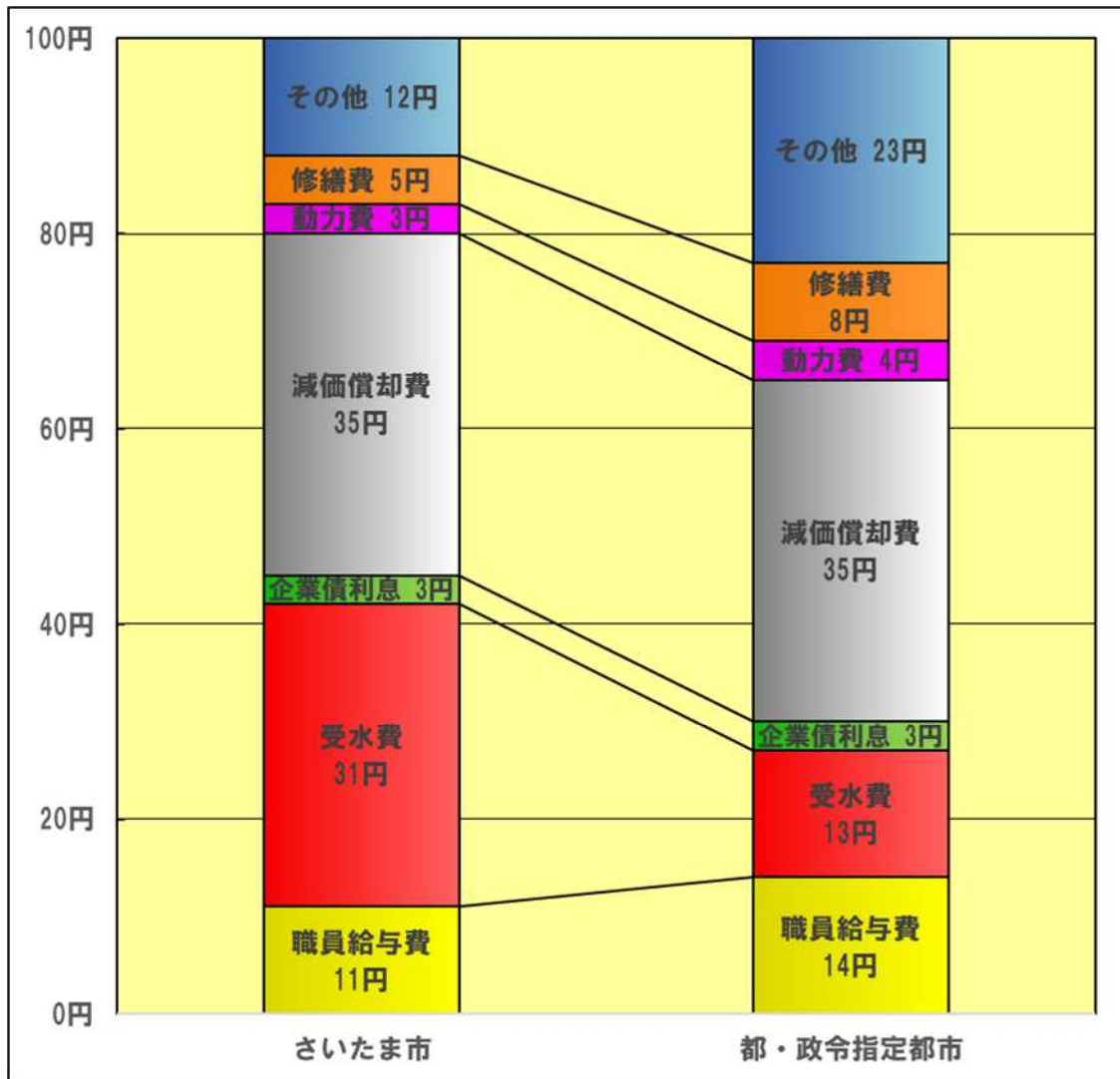


総収支比率

総費用に対する総収益の割合。
総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、100%未満の場合は、収益で費用を賄えないことになります。

さいたま市の総収支比率は、都・政令指定都市の平均に比べて高くなっており、指標も100%を超えていることから、一事業年度の経営成績は良好といえます。

■ 水道料金100円当たりの使われ方(税抜)



上図は、さいたま市の水道料金100円当たりの使われ方を、都・政令指定都市の平均と比較したグラフです。

職員給与費は、水道局職員の人件費です。業務状況の違いもありますが、都・政令指定都市の平均と比較して、さいたま市の方が低く抑えられています。

受水費とは、自己水源だけでは不足する水を他団体から購入する費用です。さいたま市は給水量の約93%を埼玉県営水道からの受水で賄っています。そのため、都・政令指定都市の平均と比較して大幅に高くなっています。

減価償却費が上のグラフの中で占める割合が高くなっているのは、耐震化事業や老朽管更新事業等を推進したためです。

修繕費は老朽化した水道施設の更新や耐震化などの諸政策の推進により、昨年度に比べ減少しており、都・政令指定都市の平均と比較しても低く抑えられています。

動力費はさいたま市、都・政令指定都市の平均のいずれも、昨年度に比べ増加しており、電力価格の高騰の影響と考えられます。